

# 平成25年度 大学院修士課程・博士前期課程の教育成果に関する アンケート調査結果の分析

## 1. 調査の概要

この調査は平成25年度の修士課程・博士前期課程修了者を対象として、大学院教育の成果について質問したものである。方法は質問紙調査で、平成26年3月12日に修了対象者37名に質問紙を配布、3月24日までに回収した。回収数は22名、回収率は59.5%であった。回収の絶対数が少ないために、結果については参考程度にみる必要がある。

## 2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について、学部卒業生の調査結果や前回平成23年度の結果とも比較しながら概要を述べる。

### 1) 修了後の進路について

修了後の進路は会社員（非研究職）が41.0%と最も多く、ついでその他（27.3%）、博士課程・研究生・PD等の研究従事者が13.7%となっている。常勤の研究職への就職者は2名（9.0%）しかいない。進路先については72.8%が希望した職種としている。平成23年度の結果と比較すると、希望した職種との回答が66.7%から72.8%に増加している。

### 2) 大学院の教育・研究について

自分が所属した講座で学んだことについては50.0%がとても満足、27.3%がどちらかといえば満足と答えており、全体としての満足度は高いと言える。しかしどちらかといえば満足していない、まったく満足していないという回答も18.2%あり、学部よりもこの点での満足度は低くなっている。大学院では少数ながらも教育への強い不満を持って修了する学生が存在することが推測されるが、平成23年度（どちらかといえば満足していない、まったく満足していないが27.8%）と比較すると満足していない学生の比率は低下している。

### 3) 大学院の様々な学習や活動とその成果について

大学院の様々な学習や活動を「講義科目」「演習」「実験・実習」「学会発表」「修士論文作成または課題研究」「大学院教育全般」に分け、それぞれへの取り組みの熱心度、満足度を尋ねたところ、いずれも修士論文作成または課題研究がもっとも高く評価されている。学生は修士論文作成や課題研究にもっとも熱心に取り組み、かつそれに満足したことがわかる。

勉強以外の活動ではアルバイト、サークル活動などに熱心に取り組んでいる。大学院で得たものとしては表現力・プレゼンテーション力（19.7%）がもっとも多く、論理的思考能力、友人・仲間、専門的な知識・技術がそれに続く。

大学院で学んだ専門科目と修了後の進路との関連については22.7%が「大いに関連がある」と答えているのに対し、21.8%が「あまり関連がない」、「まったく関連がな

い」と答えており、大学院の専門教育と進路がうまく連結していない修了者がかなりいることが推測される。平成 23 年度と比較して「あまり」または「まったく関係がない」と答えた学生が 16.7%から 21.8%に増加していること、「大いに関連がある」が 44.4%から 22.7%に減少していることも気になる。

そうした進路や職業に大学院での様々な学習や活動がどの程度役立つと思うかを尋ねたところ、修士論文作成または課題研究、学会発表は高く評価されているのに対し、授業科目や演習の評価はやや低くなっている。大学院でもっと熱心に取り組めばよかったと思う授業については実験・実習がもっとも多かった。

#### 4) 帯広畜産大学の大学院教育全体について

大学院の教育目標の達成については 40.7%が「おおむね達成していると思う」と答えているが、「あまり達成していないと思う」という答えも 27.3%あった。学部と同じ質問と比較すると、「おおむね達成している」が学部 61.1%、大学院 40.7%で、大学院修了者の方が教育目標の達成について厳しい見方をしていることがわかる。ただし、「その他・わからない」が学部の 5.6%に対して 31.8%と非常に多くなっていることから、大学院学生への教育目標の周知が不十分である可能性も示唆される。

大学院の教育システムについては「改善すべき部分が少しある」が 22.7%、「改善すべき部分の方が多い」が 18.2%で、合計すると「今のままでよいと思う」より多くなっている。自由記述回答を見ると、修士論文作成や実習よりも講義科目への不満の方が多い。単位の実質化で授業科目の負担が増加したが学生がその価値を感じていないことが推測される。

帯広畜産大学の大学院に進学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」が 36.4%、「どちらかといえば満足している」が 40.9%と、大半の学生がある程度満足していることがわかるが、「とても満足している」は平成 23 年度の 50.0%から大きく減少している。大学院修了者の満足度向上についてはさらなる取組が必要と思われる。

以上